

国指定天然記念物「御池沼沢植物群落」

指定地の現況について 2

- 東部指定地 -

平成 22 年 (2010) 3 月 31 日

四日市市文化財保護審議会委員 加田勝敏

目 次

はじめに	1
1．調査の目的	1
2．調査期間	1
3．調査の方法	1
4．取りまとめ	1
5．結果	2
．指定地全域の植生配分	2
．湿原の植生	3
．草地の植生	5
．低木及び垂高木林の植生	7
．御池沼沢東部の植物相	9
【御池沼沢植物群落東部指定地の植物目録 2009.】	10～16

〔別紙〕国指定天然記念物「御池沼沢植物群落」 - 東部指定地 - 植生図
国指定天然記念物「御池沼沢植物群落」 - 東部指定地 - 組成表

はじめに

御池沼沢西部指定地の植生と植物相については、平成 21 年(2009)3 月に報告したが、引き続き東部指定地の植生と植物相の調査を平成 21 年度に実施したので報告する。西部指定地と同様、昭和 58 年(1983)に公表された『国指定天然記念物 御池沼沢植物群落環境整備事業報告書』(以下、『1983 報告書』とする)以来の調査資料であり、指定地全域を網羅した資料でもある。

1. 調査の目的

この調査の目的は、「現況を正しく把握して、今後の御池沼沢植物群落の維持・管理、あるいは復元事業を行うための基礎資料とする」ためのものであり、どの地点にどんな群落があり、どんな植物相で構成されているかが、具体的に且つ正確に把握できるよう意図して行ったものである。

2. 調査期間

予備調査として、指定地内の所番地を明確にするための 10m ごとの測量と杭打ち作業が、市教育委員会社会教育課職員によって行われた。

植生および植物相の調査は、平成 21 年(2009)3 月 28 日から開始し、春季の調査を 5 月 11 日~6 月 27 日(17 日間)、秋季の調査を 9 月 7 日~11 月 9 日(16 日間)に亘って、筆者と社会教育課職員諸氏及び辻いずみ(菰野町立竹永小学校教諭)・井川健一(四日市市立大矢知興譲小学校教諭)・中村恵美子(四日市市立内部東小学校教諭)が行い、取りまとめは筆者が行った。

3. 調査の方法

Braun-Blanquet(1964)に従い、調査区内の全被度と植生高、出現種のすべての被度・群度、生育状況(芽生え、生育中、蕾、花、果、枯等)や草丈等を記録した。

植生調査は、本来均質な植生を選んで行われるが、今回は全域を網羅し、その各部分の成育種の状況を記録して、今後の復元・維持・管理等を行うための基礎資料にすることが主目的であるために、本来の植生調査では避けるべき、ある群落と別の群落に跨ったり、明らかに異なった環境であっても、2m メッシュでの区画を外れることがないように心がけた。また木本植物群落についても、全域がカバーされるよう考慮して、林縁部も含めて調査した。

植物相の調査は、植生調査と平行して、あるいは単独で全域を踏査して、特に植生調査から漏れる可能性の高い部分を重点に記録し、一部の同定が難しい種についてはサンプリングを行い、持ち帰って同定を行った。

4. 取りまとめ

フィールド調査で得られた資料を素表にまとめ、植物社会学的手法を用いずに、各 quadrat における優占種によって群落区分を行った。これは植物社会学的知識がない人でも、方形区の調査ができる人ならば取りまとめが出来、今後の復元作業・維持・管理の際に、まったく同じ範囲で作業前と作業後の対比が出来るといった利便性を考慮してのことである。なお、出来た組成表については、群落ごとに 1 枚の用紙にまとめるのが良いが、1 群落で数百方形区に渉るものもあるので、取り扱いの容易な A3 版に収まる範囲で分割して作成した。

群落は、多くは複層（例えば上層と下層）を形成しているが、可能な限り相観で区分できるように、また植生図の簡略化を図る意味から単層群落として表現した。

5. 結果

・指定地全域の植生配分

指定地内は、乾燥化の度合いや富栄養化の進行状況によってさまざまな植物群落へと移行している。現在の植生配分を正しく知ることで、今後の対策にも何らかの形で寄与できるであろうことを信じて、植生配分を比率でまとめてみた。

比率の算出に当たっては、2×2mメッシュを1単位として、特に木本植物群落にあっては、2mメッシュに換算して実面積を求めた。但し土手上や土手のり面は、総てを詳細に調査していないので、組成表に挙げられたメッシュ数のみで計算した。

その結果、中間湿原、ミミカキグサ イヌノハナヒゲクラス、ヨシクラスを合わせた湿原植生の占有メッシュ3122、タウコギクラスの富栄養湿地 56、ススキクラス、ヨモギクラスおよび荒地の植生をふくめた草地 1347、低木および亜高木林 1214であった。

各植物群落毎のメッシュ数を表-1に示す。

表-1 植生区分ごとの占有率

植生区分	群落名	占有メッシュ数	総メッシュ数に対する比率	植生区分毎の合計	比率	植生区分	群落名	占有メッシュ数	植生区分毎の合計	比率	
1中間湿原	ヌマガヤ群落	264	4.6	273	4.757	9 木本植物群落	クロミノシゴリ群落	82	1214	21.2	
	2ミミカキグサ イヌノハナヒゲクラス	9	0.2				イソノキ群落	119			325
	3ヨシクラス	ヨシ群落	1076				18.7	イヌザンショウ群落			21
アゼスゲ群落		717	12.5	イボタノキ群落	17		17				
フコササ群落		250	4.4	ヤマザクラ群落	4		41				
ガマ群落		5	0.1	リョウブ群落	1		1				
ヌマトラノオ群落		3	0.1	エノキ群落	2		36				
4. その他の湿原	アンペライ群落	733	12.8	798	13.9		ウメドキ群落	8			8
	ミソハギ群落	48	0.8				ヤマウルシ群落	3			3
	ナガボノワレモコウ群落	9	0.2				ヤマハゼ群落	2			2
	タチスゲ群落	1	0.0				ヌルデ群落	2			2
	ヒメゴウソ群落	1	0.0				タラノキ群落	1			15
	ボントクタデ群落	1	0.0				ノリウツギ群落	5			5
	ショウブ群落	1	0.0				アカメガシワ群落	1			2
	ハンノキ群落	1	0.0				キミズミ群落	2			2
	クサソテツ群落	3	0.1			カワチハギ群落	3	3			
	5. タウコギクラス	セイトカアワダチソウ群落	53			0.9	56	0.976	アカメヤナギ群落	20	120
アキノウナギツカミ群落		2	0.0	カワヤナギ群落	1	1					
コアゼガヤツリ群落		1	0.0	イヌコリヤナギ群落	1	1					
6ススキクラス草地	チガヤ群落	386	6.7	487	8.486	クロガネモチ群落	4	138			
	ススキ群落	30	0.5			イヌツゲ群落	6	6			
	シバ群落	31	0.5			キンモクセイ群落	1	6			
	トダシバ群落	40	0.7			ヤマナラシ群落	1	1			
7ヨモギクラス草地	ツルマメ群落	106	1.8	108	1.882	フジ群落	33	340			
	ヨモギ群落	1	0.0			アカマツ群落	3	7			
	アシボソ群落	1	0.0								
8その他の草地(荒地)	ケネザサ群落	422	7.4	752	13.1	(木本群落計)		1214	21.2		
	アレチヌスビトハギ群落	5	0.1			識別された総メッシュ数		5739			
	ヤマアワ群落	24	0.4								
	メリケンカルカヤ群落	8	0.1								
	クマザサ群落	1	0.0								
	ハチジョウススキ群落	279	4.9								
	ミヤコイバラ群落	13	0.2								
	(草地植生計)					1403	24.45				

・ 湿原の植生

湿原の植生は、秋の調査のみでは同定できない種（Carex の大半と春から夏にかけて最盛期を迎える Gramineae 等）について、全域での調査を行って、秋季の調査を補完できるよう配慮した。

東部指定地は、西部指定地とは基本的に異なった要因で形成されている湿原であり、「溜池の植生」であるはずであるが、溜池としての管理が長期間にわたって放置され、このこととあいまって、周辺全域が圃場整備事業によって乾田化されてしまった結果、池の水が外部に流出してしまって水位の管理ができない状況になり、現在の乾燥化した状況へと移行していると考えられる。

したがって、本来ならば東部指定地の主たる植生は、溜池の浮葉植物群落や沈水植物群落、抽水植物群落および水位の変動する部分に出来る草本植物群落で構成されているはずである。

（１）中間湿原（Intermediate moor）の植生

ヌマガヤ群落（*Moliniopsis japonica* com.）

この群落は、本来、地下水の流入するような湿地に成立するもので、以前の西部指定地には、その典型である野地坊主が発達していた。東部指定地におけるヌマガヤ群落は、水温も高く、停滞水域に成立しており、乾燥化、陸地化現象も進んでいるため、特に結びつきの強い種は認められない。部分的にはコイヌノハナヒゲやホザキノミミカキグサが出現する植分が見られ、ヌマガヤが繁殖する以前には、ミミカキグサ イヌノハナヒゲクラスの群落が成立していたことが想像される。

乾燥化の度合いによって、ススキクラスの種（トダシバやススキ）の被度が高い植分、さらに荒地化が進んでいる部位ではケネザサが下層に優占している。

『1983 報告書』にもヌマガヤが組成表に記録されているが、ヌマガヤ群落として抽出されるほどの量や広がりではなかったようである。

（２）ミミカキグサ イヌノハナヒゲクラス（*Utriculario-Rhynchosporietea* n.m.）の植生

コイヌノハナヒゲ群落（*Rhynchospora fujiana* com.）

ミミカキグサ イヌノハナヒゲクラス（*Utriculario-Rhynchosporietea* Ohba1982 nom.nud.）に含まれると考えられる貧栄養酸性湧水湿原の種が優占する植分について、コイヌノハナヒゲ群落として区分したが、他の特徴的な種群がまったく見当たらず、先述のヌマガヤ群落のミミカキグサ イヌノハナヒゲクラスの出現する植分と大差はないが、植生高が低く、一見、程度の良好な湿原のように見える。

『1983 報告書』では、ミミカキグサ群落として区分された植分が見られるが、今回の調査では、著しく少量で、種そのものの生育を確認する程度であった。

（３）ヨシクラス（*Phragmitetea*）の植生

ヨシクラスの植生は、低層湿原における最も普通のもので、低地帯や溜池の低水位の部位に発達する。今回の調査では、次の４群落に区分した。

ヨシ群落（*Phragmites australis* com.）

ヨシクラスの代表種ヨシが優占する植分で、ヨシが単独で密生状に生育し、植生高 3 m に達す

るような植分，下層にアゼスゲを伴う植分，アンペライが混生する植分，チゴザサを伴う植分等が見られる。

アゼスゲ群落 (*Carex thunbergii* com.)

ほとんどの植分で，ヨシが混生している。水位が上昇すればヨシが優占する群落へと移行し，乾燥しやすい植分ではシバ，チガヤ，スイバ等の侵入が著しく，草地へと移行しつつある。

チゴザサ群落 (*Isachne globosa* com.)

ヨシやアゼスゲが混生している植分もあるが，ほとんどの植分にチガヤが目立ち，乾燥化への一途をたどっていると考えられる。

ガマ群落 (*Typha latifolia* com.)

ガマが優占する群落で，植生高 1.8m 以上に達する。ほぼ独占群落となり，下層にはチゴザサが目立つ植分もある。周囲の環境次第でセイタカアワダチソウやツルマメが混生する部分も出てくる。

ヌマトラノオ群落 (*Lysimachia fortunei* com.)

ヌマトラノオが優占する植分で，著しく植生高が低く，出現種数も少ない。

(4) その他の湿原植生

アンペライ (ネビキグサ) 群落 (*Machaerina nipponensis* com.)

アンペライは，東海道以西の本州・四国・九州に分布する種で多くの県で絶滅危惧植物に指定されているが，植生上の位置付けはなされていない。

ヨシクラスの種と混生する（侵入していく）ことも多く，極端な場合は密生して 1.5m ぐらいになり，単独群落を形成する。

ミソハギ群落 (*Lythrum anceps* com.)

特定の構成種は見られず，ヨシ，チゴザサ，アゼスゲと混生したり，乾燥化が進んでいる部分ではチガヤやケネザサが下層に優占している。

ナガボノワレモコウ群落 (*Sanguisorba tenuifolia* com.)

ナガボノワレモコウは，広範囲に見られるが，優占する植分は少なく，8 メッシュであった。湿原というよりは，湿原の縁の土壌が溜まったところに多く，今回の調査でもその傾向が強く見られた。したがってヨシクラスの種以外に草地の種が目立つ。

タチスゲ群落 (*Carex maculate* com.)

タチスゲが優占する植分であるが，他の湿原植生の指標種は見られず，セイタカアワダチソウ，ヨモギ，ススキなどが多く，陸地化が進んでいる。

ヒメゴウソ群落 (*Carex phacota* com.)

ヒメゴウソが優占する植分が見られたが出現種が少なく，特別な結びつきの種群は見られない。

ボントクタデ群落 (*Persicaria pubescens* com.)

ボントクタデが優占する群落がみとめられた。特別な種との結びつきは見られず，出現種も少ない。

ショウブ群落 (*Acorus calamus* com.)

西北端の水路にショウブ群落が成立している。この水路は現在外部との流通はないと思われる。

「水は以前外部から指定地内に流入して、アンペライ群落の直前で開放されていた」と記憶しているが、現在の状況は、指定地北の空き地（以前は休耕田でハンノキ林となっていた）から流れこんだ水が西へと逆流して、西北端に達しているようである。

ハンノキ群落 (*Alnus japonica* com.)

この群落は伐採された株からの萌芽で、植生高 1 m 未満である。このまま株の除去を行わずに放置すると、ハンノキの高木林となるので、早期の対策が必要である。

植生高が低いので、低木林から切り離して、一般の湿原植生に含めた。

クサソテツ群落 (*Matteuccia struthiopteris* com.)

池の土手の外側に成立している群落で、おそらく池の水が浸出して地下水位が高くなっているであろう。クサソテツ以外はほとんどが林縁植生の指標種や草地の植物で占められている。

(5) タウコギクラス (*Bidentetea tripartitae*) の湿原植生

タウコギクラスの種は、前述の湿原植生の大半に出現しており、指定地の大半が富栄養化していることを示唆しているが、特に優占している植分をこの項にまとめた。

セイタカアワダチソウ群落 (*Solidago altissima* com.)

この植分は、もはや湿地とは言い難い状況で、湿原植生の指標種は少なく、ヨモギクラスやシロザクラスの雑草やノイバラクラスの種、ススキクラスの種が多く出現し、荒地に近いところでは、ケネザサ、ハチジョウススキ、ヤマアワが目立つ。

アキノウナギツカミ群落 (*Persicaria sieboldii* com.)

セイタカアワダチソウ群落と同様、湿原の種は少なく、雑草群落の構成種が量的にも目立つ。

コアゼガヤツリ群落 (*Cyperus haspan* com.)

草地の植生に近い種で構成されており、ケネザサやハチジョウススキなどの侵入も見られる。

・草地の植生

草地の植生は、優占種によってススキクラス、ヨモギクラスおよびその他の草地（荒地）に 3 大別した。

(1) ススキクラス (*Miscanthea sinensis*)

湿原内部の一部や周辺部（土手とその斜面）は、草地となっている。わずかに湿原植生の指標種も認められるが、多くは草地の植生の構成種群で占められている。

チガヤ群落 (*Imperata cylindrica* v. *koenigii* com.)

この群落は、湿原内部にかなり広がっており、セイタカアワダチソウ、アレチヌスビトハギなどの帰化植物や、ケネザサ、ハチジョウススキ、ツルマメ、ノアズキ、ヤハズソウが目立つ。

ススキ群落 (*Miscanthus sinensis* com.)

この植分は、ススキが侵入してからの時間の経過が短いのか、湿原植生の指標種が目立つ。またセイタカアワダチソウがほとんどの植分で見られることから、富栄養化が進行していることがうかがえる。

シバ群落 (*Zoysia japonica* com.) (cultivated)

シバ群落は、『1983 報告書』の中に「耳芝張り」なる作業が記録されており、この事業の際に土手と、U 字溝敷設作業の際に人口的に張られたものである。ただこの芝の品種名は記載されていないので、*Zoysia japonica*（シバ）として記録した。

トダシバ群落 (*Arundinella hirta* com.)

トダシバが優占する植分は、湿原の縁のみならず、湿原の中央部にまで及んでいる。ケネザサ、ハチジョウススキがかなりの量で混生しており、いつの日かケネザサやハチジョウススキに取って代わられると思われる。

(2) ヨモギクラス (*Artemisietea principis*)

ヨモギクラスの植生は、路傍や林縁などの富栄養立地に成立する低地帯の多年性植物群落である。

ツルマメ群落 (*Glycine max* ssp. *soja* com.)

つる性のマメ科植物ツルマメが優占する群落で、ヨシやセイタカアワダチソウなどの高茎草本が支持体として存在する植分では、2～3mに達することもあるが、途中で風圧を受けて倒れることが多い。支持体が低い場合は全面的に覆い被さる。

ヨモギ群落 (*Artemisia princeps* com.)

湿原植生の指標種は皆無で、しかも特定の結びつきをもつ種も見られない。植生高が 2.2m に達したヨモギ群落は特異で、富栄養立地のなせる業であると考えられる。

アシボソ群落 (*Microstegium vimineum* v. *polystachyum* com.)

アキノウナギツカミ、セイタカアワダチソウ、ツルマメ等が目立つ植分である。

(3) その他の草地の植生

ケネザサ群落 (*Pleiblastus shibuyanensis* v. *hirsutus* com.)

湿原内部や土手の周辺部には広範囲にケネザサが優占する植分が広がっている。乾燥の度合いや土地の富栄養化の状態によって構成種群が変わるが、以前は湿原であったことを証明するかのようになり、未だ湿原植生の指標種が出現する。

ハチジョウススキ群落 (*Miscanthus condensatus* com.)

本来の生育地が沿海地にあるものが、県下各地の平地から山地にいたるまでの、裸地化されたところに群落を形成しており、おそらく当御池沼沢においても、整備事業の名の下に、大々的に人手が加わり、裸地が形成されたのを機に、侵入、勢力拡大をしていると考えられる。現在もなお、生育地を拡大しているようである。特定の結びつきを持つ種は見られない。

アレチヌスビトハギ群落 (*Desmodium paniculatum* com.)

帰化植物のアレチヌスビトハギが優占する植分で、植生高 2m に達する植分も見られた。湿原植生の指標種は少なく、路傍植生の指標種やヨモギクラス、シロザクラスの種が目立つ。

ヤマアワ群落 (*Calamagrostis epigeios* com.)

荒地の植物ヤマアワが優占する植分で、地下茎による繁殖をするので、根気よく地下茎から除去する努力が必要である。

メリケンカルカヤ群落 (*Andropogon virginicus* com.)

帰化植物のメリケンカルカヤが優占する植分で、開花結実期には 1m を超え、束生するので、微小な草本類が減少して、セイタカアワダチソウやナガボノワレモコウのような高茎草本の群落になってしまう。

クマザサ群落 (*Sasa veitchii* com.)

三重県の本来の自然植生中には存在しない種であり、隣接地に植栽されているものが、根茎繁殖で指定地内に侵入してきたと考えられる。

ミヤコイバラ群落 (*Rosa paniculigera* com.)

ミヤコイバラが優占する植分で湿原植生の指標種が量的に多く見られる。乾燥化が始まっている部位ではチガヤやススキが目立ち始めている。

・低木及び亜高木林の植生

木本類が上層部に優占する植分が東部指定地には著しく多い。規模の大小に関わらず最低 2×2 m の方形区として、さらにまとまった林分として識別できるところは、形の如何にとらわれず、1 調査区として調査した。

(1) クロミノニシゴリ群落 (*Symplocos paniculata* com.)

クロミノニシゴリは、中部以西の本州・九州に分布する低木で、湿原に生育する日本固有の種であると、筆者は認識している。三重県でも県下各地に分布しているわけでもなく、大切にすべき種のひとつである。草本層にはケネザサがほとんどの植分で優占している。

(2) イソノキ群落 (*Rhamnus crenata* com.)

イソノキ群落での低木層の植被率は 10~30% の林分が多く、亜高木層に達した林分も見られる。大半の林分で草本層にはネザサが優占している。「樹木が侵入すると、これほど水分を吸い上げて、乾燥化が進む」ことの証明であろうと考えられる。

(3) オノエヤナギクラス (*Salicetea sachalinensis* com.)

マルバヤナギ群落 (*Salix chaenomeloides* com.)

亜高木層または低木層にマルバヤナギ(アカメヤナギ)が優占する群落で、草本層は、その乾燥度合い、富栄養化の度合い等によってススキ、チガヤ、ケネザサまたチゴザサ、アゼスゲ等が優占している。

カワヤナギ群落 (*Salix gilgyana* com.)

この群落は、未だ若令で植生高 4 m 程度のものである。草本層にはケネザサが優占している。

イヌコリヤナギ群落 (*Salix integra* com.)

植生高 2.3m のイヌコリヤナギが優占する植分で、草本層にはケネザサとチガヤが目立つ。

(4) イヌザンショウ群落 (*Zanthoxylum schinifolium* com.)

この林分には、湿原植生の指標種はほとんど見られず、草本層はケネザサが優占している。

(5) イボタノキ群落 (*Ligustrum obtusifolium* com.)

この林分は、ほかの低木林に比して湿原植生の指標種が多く残存し、出現種数も比較的多い。

(6) ヤマザクラ群落 (*Cerasus jamasakura* v. *jamasakura* com.)

亜高木層または低木層にヤマザクラが優占する林分で、草本層にススキ、シバ(栽)、ネザサが

優占している。

(7) リョウブ群落 (*Clethra barbinervis* com.)

低木層にリョウブが優占し、草本層にケネザサが優占する林分である。

(8) エノキ群落 (*Celtis sinensis* v. *japonica* com.)

高木層あるいは亜高木層にエノキが優占する林分で、低木層にはヤマハゼ、ヌルデが見られる。草本層はケネザサが優占している。

(9) ウメモドキ群落 (*Ilex serrata* com.)

低木層にウメモドキ(被度 10~30%)が見られる林分で、草本層はケネザサが優占している。

(10) ヤマウルシ群落 (*Rhus trichocarpa* com.)

低木層にヤマウルシが優占し、草本層にケネザサが優占する植分である。

(11) ヤマハゼ群落 (*Rhus sylvestris* com.)

亜高木層にヤマハゼが優占する植分である。

(12) ヌルデ群落 (*Rhus javanica* v. *roxburgii* com.)

低木層にヌルデが優占し、草本層にケネザサが優占する林分である。

(13) タラノキ群落 (*Aralia elata* com.)

伐採跡地や崩壊地などの肥沃な土壌のところに先駆的に成立する低木群落で、低木層にタラノキが優先し、草本層にケネザサが優占する林分である。

(14) ノリウツギ群落 (*Hydrangea paniculata* com.)

低木層または草本層にノリウツギが優占し、草本層にケネザサが優占する植分である。

(15) アカメガシワ群落 (*Mallotus japonicus* com.)

低木層にアカメガシワが優占し、草本層にケネザサが優占する林分である。

(16) キミズミ群落 (*Malus toringo* v. *toringo* com.)

三重県北部のズミは果実が黄色でキミズミとして区分される。当地にもこれが分布しており、キミズミ群落として区分した。草本層はケネザサが優占している。

(17) カワチハギ群落 (*Lespedeza cyrtobotrya* f. *kawachiana* com.)

低木層にカワチハギが植被率 20%程度で優占し、草本層にはケネザサが優占する植分である。

(18) アカマツ群落 (*Pinus densiflora* com.)

アカマツおよびアイグロマツが低木層に優占する林分が見られるが、これをアカマツ群落として区分した。下層にはネザサ、チガヤ、ススキが高い被度で優占している。

(19) クロガネモチ群落 (*Ilex rotunda* com.)

亜高木層または低木層にクロガネモチが優占する林分で、池畔の腐葉土が堆積しやすく、湿潤なところに発達する群落で、西部指定地でもタブノキやエノキを伴った林分を報告した。

今回の調査では、湿原内部に広がっている木本植物群落の一部にもクロガネモチが優占する林分が認められた。これらの林分では、ベニシダ、ジャノヒゲ、ヤブコウジなどの林床植物に加え、低木層にクチナシ、ヒサカキ、アラカシ、アオキなどのヤブツバキクラスの種が見られる。また北東部に成立している林分では、タブノキが亜高木層に高い被度で出現している。

(20) イヌツゲ群落 (*Ilex crenata* com.)

草本層とほとんど同じ植生高でイヌツゲが優占している植分が見られ、ほとんど地表を覆うよ

うに広がるので、草本層は種類の少なく、ケネザサかヌマガヤが目立つ程度である。

(21) キンモクセイ群落 (*Osmanthus heterophyllus* com.)

中国原産の庭木として多用される樹木で、逸出する例を聞かないが、クマザサと同様に、隣接地から浸入したか、フェンスが張られる以前に植栽されたものであろうと考えられる。

(22) ヤマナラシ群落 (*Populus sieboldii* com.)

かなり広範囲にヤマナラシの低木や稚樹が見られるが、まとめて低木群落として区分できる植分は少なく、ススキやハチジョウススキ、セイトカアワダチソウなどの高茎草本の株と株の間に存在する個体が多い。成長速度が速く、数年の間に群を抜いてヤマナラシの低木林となることが予測される。

(23) フジ群落 (*Wisteria floribunda* com.)

林縁植生の指標種であるフジが上層を覆っている植分が目立ち、これをフジ群落として区分した。支持体としては、ヨシ、アゼスゲ、チガヤなどが大半であるが、フジそのものが巨大化して、支持体に頼らず、太くなったつるの部分で立ち上がっているようでもある。

・ 御池沼沢東部の植物相

植物相の調査は、季節変化に合わせて3月より開始し、植生調査と平行して、また別の機会を設けて、可能な限り生育種を見落とさないように努めたが、植生調査に膨大な時間を費やしてしまい、サンプリングに十分な時間が割けなかったことも事実である。今回の3季にわたる調査で、ほとんどの生育種が網羅されていると考えられる。しかし標本の採集がまったくなされておらず、今回の調査に疑義が生じた場合にも、確認のしようがない。このことは、1983年度の調査およびその後の調査でも問題になって現在に至っている。「時すでに遅し」の感は否めないが、正しく標本の採集、製作が出来る人材を育てて、現在の生育種を証拠標本として保管することも、重要な作業のひとつであると考えられる。

次葉以下に、2009年度に生育を確認できた種のリストを報告する。リスト作成に当たって、分類体系については、現在ではDNA解析が進んでこれに基づいた分類体系がクローズアップされている。1980年代に提案された Cronquist の被子植物の分類体系や、これを採用した D.J.Mabberley の *The Plant Book* が発刊されたことによって、分類体系の流れが新しいものになりつつある。しかし一方で、今までの Engler の分類体系でやってきた研究者や、多くの研究資料を抱えている Herbarium では、それほど簡単に新しいものに変更できるわけでもなく、もし変更できたとしても、取り扱う人達が混乱してしまうことが予測される。

今回もこのことを考慮して、保守的ではあるが、シダ植物は、岩槻邦男(編)1992『日本の野生植物 シダ』(平凡社)に、種子植物は、新 Engler (Engler の分類体系に若干の変更を加えた)によった。和名および学名は可能な限り最新のものに改めたが、植生上の学名との関連性で、植生と一致していないものもある。

〔御池沼沢植物群落 東部指定地の植物目録 2009.〕				
PTERIDOPHYTA		シダ植物	備考	
	Equisetaceae		トクサ科	
1	<i>Equisetum arvense</i> L.inn.		スギナ	
	Botrychiaceae		ハナワラビ科	
2	<i>Botrychium ternatum</i> (Thunberg) Swartz		フノハナワラビ	
	Osmundaceae		ゼンマイ科	
3	<i>Osmunda japonica</i> Thunberg		ゼンマイ	
	Lygodiaceae		カニクサ科	
4	<i>Lygodium japonicum</i> (Thunberg) Swartz		カニクサ	
	Dennstaedtiaceae		コバノイシカグマ科	
5	<i>Hypolepis punctata</i> (Thunberg) Mettenius ex Kuhn		イワヒメワラビ	
6	<i>Pteridium aquilinum</i> (Linn.) Kuhn var. <i>latiusculum</i> (Desvaux) Underw. ex Hell.		ワラビ	
	Aspleniaceae		チャセンシダ科	
7	<i>Asplenium incisum</i> Thunberg		トラノオシダ	
	Dryopteridaceae		オシダ科	
8	<i>Dryopteris erythrosora</i> (D.C.Eaton) Kuntze		ヘニシダ	
	Thelypteridaceae		ヒメシダ科	
9	<i>Thelypteris decursivepinnata</i> (H.C.Hall) Ching		ゲシゲシシダ	
10	<i>Thelypteris japonica</i> (Baker) Ching		ハリガネワラビ	
11	<i>Thelypteris japonica</i> (Baker) Ching forma <i>viridescens</i> (Makino) H.Itô		アオハリガネワラビ	
	Woodsiaceae		イワシダ科	
12	<i>Deparia japonica</i> (Thunberg) M.Kato		シケシダ	
	Onocleaceae		コウヤワラビ科	
13	<i>Matteuccia struthiopteris</i> (L.inn.) Todaro		クサソテツ	
	SPERMATOPHYTA		種子植物	
	GYMNOSPERMAE		裸子植物	
	Pinaceae		マツ科	
14	<i>Pinus densiflora</i> Siebold & Zucc.		アカマツ	
15	<i>Pinus denti-thunbergii</i> Uyeki		アイクロマツ	
	ANGIOSPERMAE		被子植物	
	Monocotyledoneae		単子葉植物	
	Liliaceae		ユリ科	
16	<i>Aletris luteoviridis</i> (Maximowicz) Franchet		ノキラン	
17	<i>Allium thunbergii</i> G.Don		ヤマラッキョウ	
18	<i>Aspidistra elatior</i> Blume		ハラソ	逸出
19	<i>Hosta longissima</i> Honda ex F.Maek.		ミスギボウシ	
20	<i>Lilium formosanum</i> A.Wallace		タカサゴユリ	帰化
21	<i>Lilium lancifolium</i> Thunberg		オニユリ	逸出
22	<i>Liriope minor</i> (Maximowicz) Makino		ヒメヤブラン	
23	<i>Ophiopogon japonicus</i> (Thunb.) Ker Gawler		ジャルヒゲ	
24	<i>Ophiopogon japonicus</i> (Thunberg) Ker Gawler var. <i>umbrosus</i> Maximowicz		ナガハジャルヒゲ	
25	<i>Rohdea japonica</i> (Thunberg) Roth		オモト	
26	<i>Smilax biflora</i> Siebold ex Miquel var. <i>trinervula</i> (Miquel) Hatus. ex T.Koyama		サルメ	
27	<i>Smilax china</i> Linn.		サルトリイバラ	
	Dioscoreaceae		ヤマノイモ科	
28	<i>Dioscorea japonica</i> Thunberg		ヤマノイモ	
29	<i>Dioscorea tokoro</i> Makino		オニトコロ	
	Iridaceae		アヤメ科	
30	<i>Crocasmia x crocosmiflora</i> (Lemoine) N.E.Brown		ヒメヒオウギスイセン	帰化
31	<i>Iris ensata</i> Thunberg var. <i>spontanea</i> (Makino) Nakai ex Makino & Nemo		ノハナショウブ	
32	<i>Iris japonica</i> Thunberg		シャガ	
33	<i>Iris pseudacorus</i> Linn.		キショウブ	帰化
34	<i>Sisyrinchium rosulatum</i> E.P.Bicknell		ニワセキショウ	帰化
35	<i>Sisyrinchium</i> sp.		オオニワセキショウ	帰化
	Juncaceae		イグサ科	
36	<i>Juncus effusus</i> Linn. var. <i>decepiens</i> Buchenau		イ	
37	<i>Juncus krameri</i> Franchet & Sav.		タチコウガイゼキショウ	
38	<i>Juncus tenuis</i> Willdenow		クサイ	
39	<i>Luzula capitata</i> (Miquel) Miquel ex Komarov		スズメヤリ	
	Commelinaceae		ツユクサ科	
40	<i>Commelina communis</i> Linn.		ツユクサ	
41	<i>Murdannia keasak</i> (Hasskarl) Hand.-Mazz.		イボクサ	

	Poaceae (gramineae)	イネ科	
42	<i>Agrostis clavata</i> Trinius subsp. <i>clavata</i>	ヤマヌカホ'	
43	<i>Agrostis clavata</i> Trinius subsp. <i>matsumurae</i> (Hackel ex Honda) Tateoka	ヌカホ'	
44	<i>Aira caryophylllea</i> Linn. subsp. <i>multicaulis</i> (Dumortier) Bonnier & Layens	ヌカススキ	帰化
45	<i>Andropogon virginicus</i> Linn.	メリケンカルカヤ	帰化
46	<i>Arthraxon hispidus</i> (Thunberg) Makino	コブナグサ	
47	<i>Arundinella hirta</i> (Thunberg) Tanaka	トクシハ'	
48	<i>Briza minor</i> Linn.	ヒメコバ'ソウ	帰化
49	<i>Calamagrostis epigeios</i> (Linn.) Roth	ヤマアワ	
50	<i>Digitaria ciliaris</i> (Retzius) Koeler	メシハ'	
51	<i>Digitaria violascens</i> Link	アキメシハ'	
52	<i>Echinochloa crus-galli</i> (Linn.) P.Beauvois var. <i>praticola</i> Ohwi	ヒメイヌビエ	
53	<i>Elyusine indica</i> (Linn.) Gaertner	オシハ'	
54	<i>Elymus racemifer</i> (Steudel) Tzvelev	アオカモシク'サ	
55	<i>Elymus tsukushiensis</i> Honda var. <i>transiens</i> (Hackel) Osada	カモシク'サ	
56	<i>Eragrostis ferruginea</i> (Thunberg) P.Baeuvois	カゼ'クサ	
57	<i>Eragrostis multicaulis</i> Steudel	ニワホコリ	
58	<i>Eragrostis</i> sp.	ニワホコリの1種	
59	<i>Festuca parvigluma</i> Steudel	トホシガラ	
60	<i>Imperata cylindrica</i> (Linn.) Raeusch. var. <i>koenigii</i> (Retzius) Pilger	チガヤ	
61	<i>Isachne globosa</i> (Thunberg) Kuntze	チコ'サ'サ	
62	<i>Ischaemum aristatum</i> Linn. var. <i>crassipes</i> (Steudel) Yonek.	カモノハシ	
63	<i>Lolium multiflorum</i> Lamarck	ネズミムキ'	帰化
64	<i>Lolium x hybridum</i> Haussknecht	ネズミホソムキ'	帰化
65	<i>Microstegium japonicum</i> (Miquel) Koidz.	ササカヤ	
66	<i>Microstegium vimineum</i> (Trinius) A.Camus forma <i>vimineum</i>	アシホ'ソ	
67	<i>Miscanthus condensatus</i> Hackel	ハチジョウススキ	
68	<i>Miscanthus sinensis</i> Andersson	ススキ	
69	<i>Moliniopsis japonica</i> (Hackel) Hayata	ヌマガヤ	
70	<i>Oplismenus undulatifolius</i> (Arduino) Roemer & Schultes var. <i>japonicus</i> (Steudel)	コチ'ミ'サ'サ	
71	<i>Panicum bisulcatum</i> Thunberg	ヌカキビ'	
72	<i>Paspalum thunbergii</i> Kunth ex Steudel	スズメヒエ	
73	<i>Pennisetum alopecuroides</i> (Linn.) Sprenger	チカラシハ'	
74	<i>Phalaris arundinacea</i> Linn..	クサヨシ	
75	<i>Phragmites australis</i> (Cavanilles) Trinius ex Steudel	ヨシ	
76	<i>Phragmites japonica</i> Steudel	ツルヨシ	
77	<i>Poa acroleuca</i> Steudel	ミヅ'イ'チ'コ'ツ'ナ'キ'	
78	<i>Sacciolepis indica</i> (Linn.) Chase var. <i>indica</i>	ハイヌメリ	
79	<i>Sacciolepis indica</i> (Linn.) Chase var. <i>oryztorum</i> (Makino) Ohwi	ヌメリグ'サ	
80	<i>Sasa veitchii</i> (Carrière) Rehder	クマサ'サ	逸出
81	<i>Setalia faberi</i> R.A.W.Herrmann	アキ'エ'ノ'コ'ロ'グ'サ	
82	<i>Setalia viridis</i> (Linn.) P.Beauvois	エ'ノ'コ'ロ'グ'サ	
83	<i>Sporobolus fertilis</i> (Steudel) Clayton	ネズミノオ	
84	<i>Tresetum bifidum</i> (Thunberg) Ohwi	カニツリグ'サ	
85	<i>Vulpia myuros</i> (Linn.) C.C.Gmelin	ナキ'ナ'タ'カ'ヤ	帰化
86	<i>Zoysia japonica</i> Steudel	シハ'	栽培
	Bambusaceae	タケ科	
87	<i>Pleioblastus shibuyanans</i> Makino ex Nakai var. <i>basihirsutus</i> S.Suzuki	ケネサ'サ	
	Arecaceae (Palmae)	ヤシ科	
88	<i>Trachycarpus fortunei</i> (Hooker) H.Wendland	シュロ	帰化
	Araceae	サトイモ科	
89	<i>Acorus calamus</i> Linn.	ショウブ	
	Typhaceae	ガマ科	
90	<i>Typha domingensis</i> Persoon	ヒメガマ	
90	<i>Typha latifolia</i> Linn.	ガマ	
91	<i>Typha orientalis</i> C.Presl	コガマ	
	Cyperaceae	カヤツリグ'サ科	
92	<i>Carex arenicola</i> F.Schmidt	クロカワズ'スケ'	
93	<i>Carex dimorpholepis</i> Steudel	アゼ'ナルコ	
94	<i>Carex ischnostachya</i> Steudel	ジュズ'スケ'	
95	<i>Carex leucochloa</i> Bunge	アオスケ'	
96	<i>Carex maculata</i> Boott	クサスケ'	
97	<i>Carex maximowiczii</i> Miquel	ゴウソ	
98	<i>Carex phacota</i> Sprenger	ヒメコウソ	
99	<i>Carex pudica</i> Honda	ヌメスケ'	

100	<i>Carex thunbergii</i> Steudel	アゼ'スゲ	
101	<i>Cyperus brevifolius</i> (Rottboel) Hasskarl var. <i>leiolepis</i> (Franchet & Sav.) T.Koyama	ヒメクグ	
102	<i>Cyperus flavidus</i> Retzius	アゼ'ガヤツリ	
103	<i>Cyperus haspan</i> Linn. var. <i>tuberiferus</i> T.Koyama	コアゼ'ガヤツリ	
104	<i>Cyperus pilosus</i> Vahl	オニガ'ヤツリ	
105	<i>Eleocharis attenuata</i> (Franchet & Sav.) Palla	セイタカハリイ	
106	<i>Eleocharis tetraquetra</i> Nees	マシカクイ	
107	<i>Fimbristylis complanata</i> (Retzius) Link forma <i>exaltata</i> T.Koyama	ノテンツキ	
108	<i>Fimbristylis dichotoma</i> (Linn.) Vahl var. <i>tentsuki</i> T.Koyama	テンツキ	
109	<i>Fimbristylis diphyloides</i> Makino	クロテンツキ	
110	<i>Fimbristylis littoralis</i> Gaudichaud	ヒデ'リコ	
111	<i>Machaerina rubiginosa</i> (Solander ex G.Forster) T.Koyama	アンヘ'ライ	
112	<i>Rhynchospora faberi</i> C.B.Clarke	イトヌノハナヒゲ'	
113	<i>Rhynchospora fujiana</i> Makino	コイヌノハナヒゲ'	
114	<i>Rhynchospora malasica</i> C.B.Clarke	ミクリガヤ	
115	<i>Rhynchospora rugosa</i> (Vahl) Gale	イヌノハナヒゲ'	
116	<i>Schoenoplectus hotarui</i> (Ohwi) Holub	ホタルイ	
117	<i>Schoenoplectus juncooides</i> (Roxburgh) Palla	イヌホタルイ	
118	<i>Schoenoplectus triangulatus</i> (Roxburgh) Soják	カンガレイ	
119	<i>Scirpus mitsukurianus</i> Makino	マツカサススキ	
120	<i>Scleria mikawana</i> Makino	ミカワシシ'ユガヤ	
	Zingiberaceae	ショウカ科	
121	<i>Zingiber mioga</i> (Thunberg) Roscoe	ミョウガ	逸出
	Orchidaceae	ラン科	
122	<i>Spiranthes sinensis</i> (Persoon) Ames var. <i>amoena</i> (M.Bieberstein) H.Hara	ネシ'バナ	
	Dicotyledoneae	双子葉植物	
	Salicaceae	ヤナギ科	
123	<i>Populus tremula</i> Linn. var. <i>sieboldii</i> (Miquel) H.Ohashi	ヤマナラシ	
124	<i>Sakix gilgiana</i> Seemen	カワヤナギ'	
125	<i>Salix chaenomeloides</i> Y.Kimura	マルバ'ヤナギ'	
126	<i>Salix integra</i> Thunberg	イヌコリヤナギ'	
	Betulaceae	カハ'ノキ科	
127	<i>Alnus japonica</i> (Thunberg) Steudel	ハンノキ	
	Fagaceae	ブナ科	
128	<i>Quercus glauca</i> Thunberg	アラカシ	
	Ulmaceae	ニレ科	
129	<i>Aphananthe aspera</i> (Thunberg) Planchon	ムクノキ	
130	<i>Celtis sinensis</i> Persoon var. <i>japonica</i> (Planchon) Nakai	エノキ	
	Moraceae	クワ科	
131	<i>Morus alba</i> Linn.	マクワ	
	Cannabaceae	アサ科	
132	<i>Humulus scandens</i> (Loureiro) Merrill	カナムグラ	
	Urticaceae	イラクサ科	
133	<i>Boehmeria japonica</i> (Linn.f.) Miquel var. <i>longispica</i> (Steudel) Yahara	ヤブマオ	
	Santalaceae	ビャクダン科	
134	<i>Thesium chinense</i> Turczaninow	カナヒキソウ	
	Polygonaceae	クデ科	
135	<i>Persicaria japonica</i> (Meisner) Nakai ex Ohki	シロハ'ナサクラタデ'	
136	<i>Persicaria lapathifolia</i> (Linn.) Delarbre	オオイヌタデ'	
137	<i>Persicaria longiseta</i> (Burujiin) Kitag.	イヌタデ'	
138	<i>Persicaria muricata</i> (Meisner) Nemoto	ヤノネグ'サ	
139	<i>Persicaria perfoliata</i> (Linn.) H.Gross	イシミカワ	
140	<i>Persicaria pubescens</i> (Blume) H.Hara	ホ'ントクタデ'	
141	<i>Persicaria sagittata</i> (Linn.) H.Gross var. <i>sibirica</i> (Meissner) Miyabe	アキノウナキ'ツカミ	
142	<i>Rumex acetosa</i> Linn.	スイハ'	
	Molluginaceae	ザ'クロソウ科	
143	<i>Mollugo stricta</i> Linn.	ザ'クロソウ	
	Portulacaceae	ス'ペ'リヒコ科	
144	<i>Portulaca oleracea</i> Linn.	ス'ペ'リヒコ	
	Caryophyllaceae	ナデ'シコ科	
145	<i>Cerastium glomeratum</i> Thuiller	オランダ'ミミナグ'サ	帰化
146	<i>Sagina japonica</i> (Swartz) Ohwi	ツメク'サ	
147	<i>Stellaria aquatica</i> (Linn.) Scopoli	ウシハ'コハ'	
148	<i>Stellaria media</i> (Linn.) Villars	ハ'コハ'	
149	<i>Stellaria uliginosa</i> Murray var. <i>undulata</i> (Thunberg) Fenzl	ミノ'フスマ	

	Amaranthaceae	ヒコ科	
150	<i>Achyranthes bidentata</i> Blume var. <i>tomentosa</i> (Honda) H.Hara	ヒナタイノコツチ	
151	<i>Amaranthus viridis</i> Linn.	ホナカイヌビユ	帰化
	Schisandraceae	マツバサ科	
152	<i>Kadsura japonica</i> (Linn.) Dunal	サネカスラ	
	Lauraceae	クスノキ科	
153	<i>Cinnamomum tenuifolium</i> (Makino) Sugim. ex H.Hara	ヤブニッケイ	
154	<i>Machilus thunbergii</i> Siebold et Zucc.	タブノキ	
155	<i>Neolitsea sericea</i> (Blume) Koidz.	シロタモ	
	Ranunculaceae	キンポウゲ科	
156	<i>Clematis terniflora</i> DC.	センニンソウ	
	Berberidaceae	メギ科	
157	<i>Berberis sieboldii</i> Miquel	ヘビノホラス	
158	<i>Nandina domestica</i> Thunberg	ナンテン	逸出
	Lardizabaraceae	アケビ科	
159	<i>Akebia quinata</i> (Houttuyn) Decaisne	アケビ	
160	<i>Akebia trifoliata</i> (Thunberg) Koidz.	ミツハアケビ	
	Menispermaceae	ツツラフジ科	
161	<i>Cocculus orbiculatus</i> (Linn.) DC.	アオツツラフジ	
	Theaceae	ツバキ科	
162	<i>Camellia sinensis</i> (Linn.) Kuntze	チャノキ	逸出
163	<i>Cleyera japonica</i> Thunberg	サカキ	
164	<i>Eurya japonica</i> Thunberg	ヒサカキ	
	Hypericaceae (Guttiferae)	オトギリソウ科	
165	<i>Hypericum erectum</i> Thunberg	オトギリソウ	
166	<i>Hypericum japonicum</i> Thunberg	ヒメオトギリ	
167	<i>Hypericum laxum</i> (Blume) Koidz.	コケオトギリ	
	Brassicaceae (Cruciferae)	アブラナ科	
168	<i>Capsella bursa-pastoris</i> (Linn.) Medikus	ナズナ	
169	<i>Rorippa palustris</i> (Linn.) Besser	スカシタゴホウ	
	Crassulaceae	ハンケイトウ科	
170	<i>Sedum bulbiferum</i> Makino	コモチマンネンクサ	
	Hydrangeaceae	アジサイ科	
171	<i>Hydrangea paniculata</i> Siebold	ハクウツキ	
	Rosaceae	バラ科	
172	<i>Agrimonia nipponica</i> Koidz.	ヒメキンミズヒキ	
173	<i>Agrimonia pilosa</i> Ledebour var. <i>japonica</i> (Miquel) Nakai	キンミズヒキ	
174	<i>Cerasus jamasakura</i> (Siebold ex Koidz.) H.Ohba	ヤマザクラ	
175	<i>Duchesnea chrysantha</i> (Zollinger & Moritzi) Miquel	ヘビイチゴ	
176	<i>Eriobotrya japonica</i> (Thunberg) Lindley	ビワ	逸出
177	<i>Malus toringo</i> (Siebold) Siebold ex de Vriese var. <i>toringo</i>	キミズミ	
178	<i>Potentilla anemonifolia</i> Lehmann	オヘビイチゴ	
179	<i>Potentilla freyniana</i> Bornmüller	ミツハツチグリ	
180	<i>Pourthiaea villosa</i> (Thunberg) Decaisne var. <i>villosa</i>	カマツカ	
181	<i>Rosa multiflora</i> Thunberg	ノイバラ	
182	<i>Rosa paniculigera</i> (Koidz.) Makino ex Momiy.	ミヤコイバラ	
183	<i>Rubus parvifolius</i> Linn.	ナラシロイチゴ	
184	<i>Sanguisorba tenuifolia</i> Fischet ex Link var. <i>alba</i> trautvetter & C.A.Meyer	ナガホノシロワレモコウ	
185	<i>Sanguisorba tenuifolia</i> Fischet ex Link var. <i>purpurea</i> trautvetter & C.A.Meyer	ナガホノアカワレモコウ	
	Fabaceae (Leguminosae)	マメ科	
186	<i>Aeschynomene indica</i> Linn.	クサネム	
187	<i>Albizia julibrissin</i> Durazzini	ネムノキ	
188	<i>Chamaecrista nomame</i> (Siebold) H.Ohashi	カラケツメイ	
189	<i>Crotalaria sessiliflora</i> Linn.	タヌキマメ	
190	<i>Desmodium paniculatum</i> (Linn.) DC.	アレチヌスビトハギ	帰化
191	<i>Dunbaria villosa</i> (Thunberg) Makino	ノアスキ	
192	<i>Glycine max</i> (Linn.) Merrill subsp. <i>soja</i> (Siebold e& Zucc.) H.Ohashi	ツルマメ	
193	<i>Kummerowia stipulacea</i> (Maximowicz) Makino	マルハヤハズソウ	
194	<i>Kummerowia striata</i> (Thunberg) Schindler	ヤハズソウ	
195	<i>Lespedeza cuneata</i> (Dum.Cours.) G.Don	メドハギ	
196	<i>Lespedeza cyrtobotrya</i> Miquel forma <i>kawachiana</i> (Nakai) Hatus.	カワチハギ	
197	<i>Lespedeza pilosa</i> (Thunberg) Siebold & Zucc.	ネコハギ	
198	<i>Pueraria lobata</i> (Willdenow) Ohwi	クズ	
199	<i>Trifolium dubium</i> Sibthorp	コメツブツメクサ	帰化
200	<i>Trifolium repens</i> Linn.	シロツメクサ	帰化

201	<i>Vicia hirsuta</i> (Linn.) Gray	スズメエンドウ	
202	<i>Vicia sativa</i> Linn. subsp. <i>nigra</i> (Linn.) Ehrhart	ヤハズエンドウ	
203	<i>Vicia tetrasperma</i> (Klinn.) Schreber	カスマクサ	
204	<i>Wisteria floribunda</i> (Willdenow) DC.	フジ	
	Oxalidaceae	カタハミ科	
205	<i>Oxalis corniculata</i> Linn.	カタハミ	
206	<i>Oxalis dillenii</i> Jacquin	オッチカカタハミ	帰化
	Geraniaceae	アウソウ科	
207	<i>Geranium carolinianum</i> Linn.	アメリカアウソウ	帰化
208	<i>Geranium thunbergii</i> Siebold ex Lindley et Paxton	ゲンノショウコ	
	Euphorbiaceae	トウダイグサ科	
209	<i>Acalypha australis</i> Linn.	エノキグサ	
210	<i>Chamaesyce maculata</i> (Linn.) Small	コニシクソウ	帰化
211	<i>Chamaesyce nutans</i> (Lagasca) Small	オオコニシクソウ	帰化
212	<i>Mallotus japonicus</i> (Linn.fil.) Müll.Arg.	アカメガシワ	
	Rutaceae	ミカン科	
213	<i>Zanthoxylum schinifolium</i> Siebold & Zucc.	イヌザンショウ	
	Polygalaceae	ヒメハキ科	
214	<i>Polygala japonica</i> Houttuyn	ヒメハキ	
	Anacardiaceae	ウルシ科	
215	<i>Rhus javanica</i> Linn. var. <i>chinensis</i> (Miller) T.Yamaz.	ヌルデ	
216	<i>Rhus sylvestris</i> Siebold & Zucc.	ヤマハゼ	
217	<i>Rhus trichocarpa</i> Miquel	ヤマウルシ	
	Aquifoliaceae	モチノキ科	
218	<i>Ilex crenata</i> Thunberg	イヌツゲ	
219	<i>Ilex macropoda</i> Miquel	アオハダ	
220	<i>Ilex rotunda</i> Thunberg	クロガネモチ	
221	<i>Ilex serrata</i> Thunberg	ウメドキ	
	Celastraceae	ニシキギ科	
222	<i>Celastrus orbiculatus</i> Thunberg	ツルウメドキ	
223	<i>Euonymus sieboldianus</i> Blume	マユミ	
	Staphyleaceae	ミヅハクウキ科	
224	<i>Euscaphis japonica</i> (Thunberg) Kanitz	ゴンスイ	
	Rhamnaceae	クロウメドキ科	
225	<i>Berchemia racemosa</i> Siebold & Zucc.	クマヤナキ	
226	<i>Rhamnus crenata</i> Siebold & Zucc.	イソノキ	
	Vitaceae	ブドウ科	
227	<i>Ampelopsis glandulosa</i> (Wallich) Momi. var. <i>heterophylla</i> (Thunberg) Momi.	アフトウ	
228	<i>Cayratia japonica</i> (Thunberg) Gagnepain	ヤブガラシ	
229	<i>Parthenocissus tricuspidata</i> (Siebold & Zucc.) Planchon	ツタ	
230	<i>Vitis ficifolia</i> Bunge	エビヅル	
	Elaeagnaceae	グミ科	
231	<i>Elaeagnus glabra</i> Thunberg	ツルグミ	
232	<i>Elaeagnus pungens</i> Thunberg	ナラシログミ	
	Violaceae	スミレ科	
233	<i>Viola mandshurica</i> W.Becker	スミレ	
234	<i>Viola verecunda</i> A.Gray	ツボスミレ	
	Cucurbitaceae	ウリ科	
235	<i>Trichosanthes cucumeroides</i> (Seringe) Maximowicz ex Franchet & Sav.	カラスウリ	
236	<i>Zehneria japonica</i> (Thunberg) H.Y.Liu	スズメウリ	
	Lythraceae	ミソハキ科	
237	<i>Lythrum anceps</i> (Koehne) Makino	ミソハキ科	
	Onagraceae	アカハナ科	
238	<i>Epilobium pyrrichorophum</i> Franchet & Sav.	アカハナ	
239	<i>Ludwigia ovalis</i> Miquel	ミスユキノシタ	
240	<i>Oenothera biennis</i> Linn.	メマツヨイグサ	帰化
241	<i>Oenothera laciniata</i> Hill	コマツヨイグサ	帰化
	Haloragaceae	アリトウグサ科	
242	<i>Haloragis micrantha</i> (Thunberg) R.Brown	アリトウグサ	
	Cornaceae	ミスギ科	
243	<i>Aucuba japonica</i> Thunberg	アオキ	
	Araliaceae	ウコギ科	
244	<i>Aralia cordata</i> Thunberg	ウド	
245	<i>Aralia elata</i> (Miquel) Seemann	タラノキ	
246	<i>Dendropanax trifidus</i> (Thunberg) Makino ex H.Hara	カクレミノ	
247	<i>Eleutherococcus spinosus</i> (Linn.fil.) S.Y.Hu	ヤマウコギ	

	Apiaceae (Umbelliferae)	セリ科	
248	<i>Centella asiatica</i> (Linn.) Urban	ツボクサ	
249	<i>Hydrocotyle maritima</i> Honda	ノヂメ	
250	<i>Oenanthe javanica</i> (Blume) DC.	セリ	
251	<i>Torilis scabra</i> (Thunberg) DC.	オヤブシラミ	
	Clethraceae	リョウブ科	
252	<i>Clethra barbinervis</i> Siebold & Zucc.	リョウブ	
	Ericaceae	ツツジ科	
253	<i>Lyonia ovalifolia</i> (Wallich) Drude subsp. <i>neziki</i> (Nakai & H.Hara) H.Hara	ネジキ	
254	<i>Rhododendron kaempferi</i> Planchon var. <i>kaempferi</i>	ヤマツツジ	
255	<i>Vaccinium bracteatum</i> Thunberg	シャシャンボ	
	Myrsinaceae	ヤブコウジ科	
256	<i>Ardisia crenata</i> Sims	マンリョウ	
257	<i>Ardisia japonica</i> (Thunberg) Blume	ヤブコウジ	
	Primulaceae	サクラソウ科	
258	<i>Lysimachia fortunei</i> Maximowicz	ヌマトラノオ	
259	<i>Lysimachia japonica</i> Thunberg	コナスビ	
	Ebenaceae	カキノキ科	
260	<i>Diospyros kaki</i> Thunberg	カキノキ	
	Symplocaceae	ハイノキ科	
261	<i>Symplocos paniculata</i> (Thunberg) Miquel	クロミノニシコリ	
	Oleaceae	モクセイ科	
262	<i>Ligustrum japonicum</i> Thunberg	ネズミモチ	
263	<i>Ligustrum obtusifolium</i> Siebold & Zucc.	イホタナキ	
264	<i>Osmanthus fragrans</i> Lour. var. <i>aurantiacus</i> Makino forma <i>aurantiacus</i> (Makino) P.S.Gre	キンモクセイ	逸出? 植栽
	Gentianaceae	リンドウ科	
265	<i>Gentiana scabra</i> Bunge var. <i>buergeri</i> (Miquel) Maximowicz forma <i>stenophylla</i> (H.Hara) O	ホソバリンドウ	
266	<i>Gentiana thunbergii</i> (G.Don) Grisebach var. <i>minor</i> Maximowicz	タテヤマリンドウ	
	Asclepiadaceae	ガガイモ科	
267	<i>Metaplexis japonica</i> (Thunberg) Makino	ガガイモ	
268	<i>Tylophora aristolochioides</i> Miquel	オオカモメツル	
269	<i>Tylophora floribunda</i> Miquel	コカモメツル	
	Rubiaceae	アカネ科	
270	<i>Galium spurium</i> Linn. var. <i>echinospermon</i> (Wallr.) Hayek	ヤエムグラ	
271	<i>Galium trifidum</i> Linn. subsp. <i>columbianum</i> (Rydberg) Hultén	ホソバノヨツバムグラ	
272	<i>Gardenia jasminoides</i> Ellis	クチナシ	
273	<i>Hedyotis brachypoda</i> (DC.) Sivar. & Biju	フタバムグラ	
274	<i>Neanotis hirsuta</i> (Linn.fil.) W.H.Lewis var. <i>hirsuta</i>	ハシカグサ	
275	<i>Paederia scandens</i> (Loureiro) Merrill	ヘクソカスラ	
	Convolvulaceae	ヒルガオ科	
276	<i>Calystegia hederacea</i> Wallich	コヒルガオ	
277	<i>Ipomoea hederacea</i> (Linn.) Jacquin	アメリカアサガオ	帰化
278	<i>Ipomoea lacunosa</i> Linn.	マメアサガオ	帰化
	Verbenaceae	クマツヅラ科	
279	<i>Callicarpa dichotoma</i> (Loureiro) K.Koch	コムラサキ	
	Lamiaceae (Labiatae)	シソ科	
280	<i>Clinopodium gracile</i> (Bentham) Kuntze	トウバナ	
281	<i>Lycopus maackianus</i> (Maximowicz ex Herder) Makino	ヒメシロネ	
281	<i>Mosla scabra</i> (Thunberg) C.Y.Wu & H.W.Li	イヌコウジュ	
282	<i>Scutellaria dependens</i> Maximowicz	ヒメナミキ	
	Solanaceae	ナス科	
283	<i>Physalis angulata</i> Linn.	センナリホオズキ	帰化
284	<i>Solanum nigrum</i> Linn.	イヌホオズキ	
	Scrophulariaceae	ゴマノハグサ科	
285	<i>Linaria canadensis</i> (Linn.) Dumortier	マツバウンラン	帰化
286	<i>Lindernia crustacea</i> (Linn.) F.Mueller	ウリクサ	
287	<i>Lindernia procumbens</i> (Krock) Borbás	アゼナ	
288	<i>Veronica arvensis</i> Linn.	クチイヌフクリ	帰化
289	<i>Veronica persica</i> Poiret	オオイヌフクリ	帰化
	Acanthaceae	キツネノマゴ科	
290	<i>Justisia procumbens</i> Linn. var. <i>procumbens</i>	キツネノマゴ	
	Orobanchaceae	ハマウツボ科	
291	<i>Aeginetia indica</i> Linn.	ナンバンキセル	
	Lentibulariaceae	クヌキモ科	
292	<i>Utricularia bifida</i> Linn.	ミミカキクサ	
293	<i>Utricularia caerulea</i> Linn.	ホザキ/ミミカキクサ	

	Plantaginaceae	オオハコ科	
294	<i>Plantago asiatica</i> Linn.	オオハコ	
	Caprifoliaceae	スイカス'ラ科	
295	<i>Lonicera japonica</i> Thunberg	スイカス'ラ	
296	<i>Viburnum dilatatum</i> Thunberg	ガマスミ	
	Campanulaceae	キキョウ科	
297	<i>Lobelia sessilifolia</i> Lambert	サウキ'キョウ	
298	<i>Triodanis biflora</i> (Ruiz & Pavon) Greene	ヒナキキョウソウ	帰化
299	<i>Triodanis perfoliata</i> (Linn.) Nieuwland	キキョウソウ	帰化
	Asteraceae (Compositae)	キク科	
300	<i>Ambrosia artemisiifolia</i> Linn.	ブタクサ	帰化
301	<i>Artemisia indica</i> Willdenow var. <i>maximowiczii</i> (Nakai) H.Hara	ヨモギ'	
302	<i>Aster microcephalus</i> (Miquel) Franchet & Sav. var. <i>ovatus</i> (Franchet & Sav.) Soejima et M	ノコンキク	
303	<i>Aster rugulosus</i> Maximowicz	サウシロキク	
304	<i>Bidens frondosa</i> Linn.	アメリカセンダングサ	帰化
305	<i>Cirsium japonicum</i> Fischer ex DC.	ノアサミ	
306	<i>Conyza canadensis</i> (Linn.) Cronquist	ヒメムカシヨモギ'	帰化
307	<i>Conyza smatrensis</i> (Retzius) E..Walker	オオアレノギク	帰化
308	<i>Eclipta alba</i> (Linn.) Hasskarl	アメリカカザフ'ロウ	帰化
309	<i>Erigeron annuus</i> (L.inn.) Persoon	ヒメシ'ヨオン	帰化
310	<i>Galinsoga quadriradiata</i> Ruiz & Pavon	ハキダ'メキク	帰化
311	<i>Gamochaeta purpurea</i> (Linn.) A.L..Cabrera	ウスヘ'ニチチコグサ	帰化
312	<i>Gnaphalium affine</i> D.Don	ハハコグサ	
313	<i>Gnaphalium calviceps</i> Fernald	タチチコグサ	帰化
314	<i>Gnaphalium coarctatum</i> Willdenow	ウラシ'ロチチコグサ	帰化
315	<i>Gnaphalium japonicum</i> Thunberg	チチコグサ	
316	<i>Gnaphalium pennsylvanicum</i> Willdenow	チチコグ'サモドキ	帰化
317	<i>Ixeridium dentatum</i> (Thunberg) Tzvelev	ニガナ	
318	<i>Ixeridium dentatum</i> (Thunberg) Tzvelev var. <i>stoloniferum</i> (Kitam.)	ハイニガナ	
319	<i>Ixeris japonica</i> (Burmmit fil.) Nakai	オオジシ'バリ	
320	<i>Lactuca indica</i> Linn.	アキノゲ'シ	
321	<i>Picris hieracioides</i> Linn. subsp. <i>japonica</i> (Thunberg) Krylov	コウゾ'リナ	
322	<i>Solidago altissima</i> Linn.	セイタカアワ'ダチソウ	帰化
323	<i>Youngia japonica</i> (Linn.) DC.	オニ'ビラコ	
	Bryopsida	蘚苔植物	
	Sphagnaceae	ミス'ゴケ科	
	<i>Sphagnum palustre</i> Linn.	オオミス'ゴケ	

文献

D.J.Mabberley 1997 THE Plant-Book 2. ed Cambridge unv. Press

岩槻邦男 (編) 1992 日本の野生植物 シダ 平凡社 東京

宮脇昭・奥田重俊・藤原睦夫 1994 会通信版 日本植生便覧 至文堂 東京

大場達之 2003 千葉県の植物群落 千葉県の自然誌 P1143-1146 千葉県

大井次三郎 (著) 北川政夫改訂 1992 改訂版 新日本植物誌 至文堂 東京

四日市市教育委員会 1983 国指定天然記念物 御池沼沢植物群落環境整備事業報告書 三重

米倉浩司 2009 高等植物分類表 北隆館 東京

米倉浩司 BGPlants Y list bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_srch_easy.html -